

社会福祉法人下毛もみじ会 グループホームとちの木
令和7年度 第1回地域連携推進会議 議事録

1. 開催状況

事業所	社会福祉法人下毛もみじ会 グループホームとちの木	
グループホーム所在地	グループホームとちの木：中津市耶馬溪町大字柿坂	
	グループホームとちの木2：中津市万田	
会場	社会福祉法人下毛もみじ会 もみじ園会議室	
開催日時	令和8年2月4日（水） 14時30分～17時	
司会・記録	サービス管理責任者	連絡先：0979-54-3490

2. 出席者

地域	出席者
利用者（必須）	2名：柿坂ホーム1名、万田ホーム1名
利用者家族（必須）	4名：柿坂ホーム2名、万田ホーム2名
地域の関係者（必須）	1名：公民館長 1名：自治会長
福祉に知見のある人（任意）	1名：民生委員・主任児童委員
経営に知見のある人（任意）	
施設等所在地の市町村担当者等（任意）	1名：福祉支援課 障害福祉係主幹
施設職員	3名：理事長、管理者 サービス管理責任 (利用者地域連携推進員の意思決定補助)

3. 登録者の状況

定員数9名 入居者数9名（3月1日現在9名）

入居者の割合 男性：4名、女性：5名 計9名

障害支援区分 区分なし：7名、区分2：2名

4. 議題及び会議内容（次第）

- (1) 開会
- (2) 法人理事長より挨拶
- (3) 地域連携推進会議について
- (4) 出席者紹介
- (5) 議事概要
 - ①施設・地域の連携
 - ②施設等やサービスの透明性、質の確保
 - ③利用者の権利擁護

- ④次年度（令和8年度）活動計画・案について
 - ⑤グループホーム見学
 - ⑥要望・助言について
- (6) その他意見交換

5. 議題報告

- (2) 法人理事長より、本会議の趣旨や経緯、令和7年度からは設置義務となる旨の説明があった。
- (3) 地域連携推進会議について配布資料を参照していただきながら管理者より説明を行った。地域連携推進会議の目的としては、「開かれたホームづくり」とし、障害福祉サービス事業所が、地域の中で適切に運営されているかを、外部の視点で確認・助言いただくための協議の場としている。障害福祉は大きな転換期を迎えており、ニーズの多様化、人材不足を加え、私たちが直面している最も深刻な課題が利用者の皆様の高齢化にある。障害と老いが重なり合うことで支援は長期化し医療的なケアや付随した通院同行も不可欠となっている。福祉施設だけでは利用者の生活を完結させることが困難な時代となっている。だからこそ地域、医療、介護を皆様と手を取りながら連携することがこれまで以上に重要だと考えている。閉じた運営になりがちな施設に地域の風、保護者の目を入れていただき、皆様の第三者的な視点で率直な助言をいただきたい。直接グループホームを覗いていただき、ご意見いただき地域全体で支える仕組みづくりになればと考えている。
- (4) サービス管理責任者より、構成員（出席者）の自己紹介を行った（名簿参照）。
- (5) ①施設・地域の連携（入居者の障がい状況等、近隣からの苦情等の共有、地域行事のご案内、防災対策）について、別紙参照していただき、障害特性や地域で取り組んでいること、苦情があった際の受付と対応等についてサービス管理責任者より報告を行い、質疑を求めた。その際構成員より防災対策について避難場所等について以下の質問があった。
- ◇ 施設（もみじ園）からの避難先について
質疑：もみじ園での避難が困難な場合、どこへ避難するのか。
応答：
 - ・基本方針：安全面を最優先とした事前行動を行い、利用者の障害特性を十分に考慮した上で避難先を選択している。
 - ・避難場所の想定：第一選択は「もみじ園」とする。困難な場合の代替先として「城井公民館」または「豊寿園」への避難を想定している。実効性を高めるため、豊寿園での合同訓練にも参加済みである。
 - ・グループホーム利用者の対応：対象利用者には「個別避難計画書」を作成しており、避難先での生活に困難が生じないように十分な事前準備を行っている。
 - ◇ 在宅時における被災・避難対応について
質疑：帰宅後、自宅で被災した場合、障害のある利用者が地域の公民館等へ避難することは困難が予想されるが、どのような扱いになるか。
応答：
 - ・基本方針：当施設は通所施設であるため、各家庭での防災対策（避難のタイミングや避難場所の決定など）については、原則として各ご家庭の判断に委ねている。
 - ・施設側のサポート体制：日頃から「個別支援計画書」等を活用し、利用者の避難先やご家庭での防災準備の状況について確認と把握に努めている。
- ②施設等やサービスの透明性・質の確保（入居者の日常生活の様子について（別紙有）
経営状況の報告、義業継続計画（BCP）の策定状況について（別紙有））について、別

紙参照していただき、サービス管理責任者より日常生活、健康管理、居室での様子、食事の様子、また、グループホームでそれぞれが自立に向けて取り組んでいること、防災訓練・災害等の備えの説明を行った。

災害時の対応等について、事業継続計画（BCP）、ハザードマップの説明を行い、各グループホームで災害訓練等実施についての報告書を参照していただきながら、サービス管理責任者より内容の説明を行った。

管理者から「令和7年度事業計画（令和6年度事業実績）」をもとに今年度の施設の運営状況等について報告があった。特に、利用者及び保護者の高齢化に伴う新規利用者の受け入れ状況について報告があった。

- ③利用者の権利擁護（事故・ヒヤリ・ハットの報告、支援者の様子（別紙有））については、職員（世話人）の役割や、防災、事故防止、感染症対策の取り組みについてサービス管理責任者より説明を行った。
- ④次年度（令和8年度）の活動計画・案について、会議開催は、年度内開催1回とし次年度の活動計画案について説明を管理者より行った。
- ⑤会議終了後柿坂ホーム、万田ホームの見学を行い、施設内の案内を行った。
また、本会議の趣旨からも回数に拘らず普段から見学していただくことへの依頼を管理者より行った。
- ⑥要望、助言等については今回の会議ではなかった。

（6）その他意見交換

構成員より

- ・訪問時に利用者の皆さんが気さくに出てきて挨拶をしてくれたり、居室を見せてくれたり、リラックスして生活している様子が伺えてよかった。
- ・グループホーム訪問時に利用者の方から話しかけてくれ、直接話が聞けるのは日々安心して生活しているからだと感じた。
- ・世話人さんが利用者の健康面も考えて献立を工夫していたり、食べやすいように刻んだりして対応が手厚いなと感じた。
- ・利用者が実際生活をしている様子が見ることができて、協力できることは今後も協力していきたい。
- ・利用者の方も参加していることはとても良い、利用者の方に困りや要望の質問があったが、毎日楽しい、ご飯が美味しいとの声もあった。

（7）閉会を管理者が閉会を告げた。

令和8年2月4日

記録：グループホームとちの木 サービス管理責任者 瀬戸間ゆかり